

相生振興公社損益計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

収入の部	
店舗販売事業収入	120,216
公共施設管理事業収入	9,301
営業外収入	5,214
収入合計	134,731
支出の部	
店舗販売事業支出	101,644
公共施設管理事業支出	8,095
事業管理費	24,065
支出合計	133,804
税引前当期利益	927
法人税等充当額	80
当期利益	847

単位：千円

（株）相生振興公社および北海道つべつまちづくり（株）は町が出資している会社であることから、地方自治法の規定に基づき事業報告と決算書の提出が義務付けられています。9月の定例議会において、両社から令和6年度事業報告および決算報告がされましたので、報告概要をお知らせします。※津別町振興公社は7月号にて掲載しています。



令和6年度相生振興公社決算報告

〈事業報告〉

令和6年度も「道の駅あいおい」の運営を中心業務とし、営業を推進してきました。地域の活性化と雇用の場という位置づけで始まった相生物産館ですが、平成15年に「道の駅あいおい」となり、登録から20年が過ぎました。ここ数年のクマヤキ人気の高まりもあり、今では津別町の「目的地」となりつつあります。今期はマスクミに取り上げられることが多く、中でも全国ネットTV番組であるTBS「マツコの知らない世界」にて、豆腐が紹介されたことへの反響は大きく、放送後は連日豆腐を求めるお客が多数来館し売り切れる日が続きました。また、秋にはキッチンカーイベントも開催し、多くの集客があり、津別町に賑わいをつくることができました。これは、営業にも好影響を及ぼし、今年度は黒字決算となりました。

令和7年度は、株式会社フジタコーポレーションと業務提携を締結し、フジタコーポレーションと協力しながら、「豆腐」や「クマヤキ」をさらに有名商品へ押し上げていく一年にしていきます。

まちづくり会社損益計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

収入の部	
特産品事業収入	1,631
飲食事業収入	1,183
デザイン事業収入	4,841
受託事業収入	43,505
営業外収益	18
収入合計	51,178
支出の部	
特産品事業支出	1,330
飲食事業支出	3,920
デザイン事業支出	3,984
受託事業支出	34,619
共通費	4,801
営業外支出	483
支出合計	49,137
税引前当期利益	2,041
法人税等充当額	208
当期利益	1,833

単位：千円

（事業報告）当期は、令和6年11月に「津別町幸町地区コミュニティ施設」の指定管理者として津別町より指定を受け、11月8日に同施設内に事務所を移転、11月13日の「オープン式典」を経て翌日14日には「ドックストア」のオープンを迎えました。その他、部門ごとの状況について、特産品事業の「クマヤキサブレ」販売は常設販売7店舗で、昨年に引き続

き「どさんこプラザ」や「三越デパートマリアージュ」などで年間を通して取り扱いをいただきました。飲食事業は、売上増加に向けた戦略の見直しとチーズ製造の準備を進め黒字化に向け取り組んできましたが、抜本的な改善には至りませんでした。デザイン事業は、チラシ・冊子の作成、学校内の作成を中心に、町内・オホーツク管内の事業者からの受注があり、計画を上回る実績となりました。令和7年度の事業計画については、収益向上に向け、各種部門において安定した経営を継続するため、引き続き経営アドバイザーを委嘱し、さらなる事業展開を行いながら「稼ぐまちづくり」を推進し、津別町の地方創生の実現に向けて取り組んでいきます。

祭りで地域に活気が溢れる

第30回ふるさと祭り・津別神社秋季例大祭

9月9日・10日の2日間、第30回つべつふるさとまつりが開催されました。会場には45もの屋台が立ち並び、焼き鳥などの定番グルメから射的などの懐かしい遊びまで、子どもから大人まで楽しめる内容となりました。来場者の笑顔と賑やかな声があふれ、地域全体が一体となってまつりを楽しむ姿が見られました。

2日目には、津別神社秋季例大祭に合わせて神輿渡御も行われました。津別神輿会「鹿鳴郷」を中心に、高校生や北大HALCC、近隣市町村の神輿会も加わり、山鳴り太鼓の力強い響きに先導されながら、担ぎ手たちの掛け声が町中に響き渡りました。こども神輿では小さな担ぎ手たちが一生懸命に神輿を担ぎ、見守る人々から大きな拍手が送られました。さらに、伝統芸能「駒踊り」には多くの子どもたちが参加し、華やかな舞を披露。まつりは最後まで大いに賑わいました。



令和6年度まちづくり会社決算報告

〈事業報告〉

（事業報告）当期は、令和6年11月に「津別町幸町地区コミュニティ施設」の指定管理者として津別町より指定を受け、11月8日に同施設内に事務所を移転、11月13日の「オープン式典」を経て翌日14日には「ドックストア」のオープンを迎えました。その他、部門ごとの状況について、特産品事業の「クマヤキサブレ」販売は常設販売7店舗で、昨年に引き続

き「どさんこプラザ」や「三越デパートマリアージュ」などで年間を通して取り扱いをいただきました。飲食事業は、売上増加に向けた戦略の見直しとチーズ製造の準備を進め黒字化に向け取り組んできましたが、抜本的な改善には至りませんでした。デザイン事業は、チラシ・冊子の作成、学校内の作成を中心に、町内・オホーツク管内の事業者からの受注があり、計画を上回る実績となりました。令和7年度の事業計画については、収益向上に向け、各種部門において安定した経営を継続するため、引き続き経営アドバイザーを委嘱し、さらなる事業展開を行いながら「稼ぐまちづくり」を推進し、津別町の地方創生の実現に向けて取り組んでいきます。



オーケストラの迫力とハーモニー

日本フィルセミナーコンサート開催

全国から参加したアマチュア演奏家を指導する「つべつ日本フィルセミナー」が今年も開催。9月7日には、その集大成である「第28回つべつ日本フィルセミナーコンサート」が中央公民館で行われ、観客はオーケストラの迫力と美しいハーモニーを満喫しました。



ニュージーランドへ旅立つ

津別町青少年海外研修派遣事業出発式

8月27日、津別高校生の青少年海外研修派遣事業出発式が行われました。今年5名が参加し、9月8日から12日間ニュージーランドに滞在。生徒はそれぞれ、歴史や生態系の違いなどの研修テーマを設定しており、12月に成果報告会を開催する予定です。